

肥満・代謝に関連する特定健診質問項目の検討

研究分担者 山岸良匡 筑波大学医学医療系 教授

研究要旨

特定健診質問票の改定に向けて、食事・食行動に関する既存の3項目(質問票No. 15、16、17)について、肥満、高血糖、脂質異常症、高血圧、メタボリックシンドロームをエンドポイントにした、日本人の疫学研究に関する過去1年間の文献レビューを行い、エビデンスを検証した。その結果、特定健診の食事・食行動に関する質問項目と2型糖尿病発症との関連を報告した1文献を追加した。No.15、16、17の既存の質問項目については、肥満に加えて2型糖尿病発症に関しても概ねエビデンスがあると考えられた。

A. 研究目的

特定健診質問項目の改定に向けて、食事・食行動に関する既存の質問項目の文献レビューを行い、エビデンスを検証した。エンドポイントを肥満、高血糖、脂質異常症、高血圧、メタボリックシンドロームとした日本人の疫学研究に関する過去1年間の文献を検討した。

てレビューを行った。既存の質問項目については、先行研究班である「系統的レビューとコホート研究に基づく特定健診質問票の開発(平成27～28年)」における同様の検討の後、最近1年間の文献をレビューの対象とした。各文献の対象、曝露要因、エンドポイント、研究デザイン、結果、エビデンスレベル、文献等を表に示した。

B. 研究方法

特定健診質問項目のうち、食事・食行動に関する既存の3項目(質問票 No.15、16、17)を対象とした。

(倫理面への配慮)

文献レビューであるので倫理面の問題はない。

No.15 就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある

No.16 朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取している

No.17 朝食を抜くことが週に3回以上ある

各項目について、PubMedをデータベースとして日本人を対象とした文献を検索し、ヒットした文献のうち特に関連すると考えられた文献につい

C. 研究結果

文献レビューの結果を表1に示した。レビューの対象となった文献は1件(前向きコホート1件)であった。特定健診の食事・食行動に関する質問項目と2型糖尿病発症との関連を報告したものであった。

D. 考察

本研究では、先行研究班である「系統的レビューとコホート研究に基づく特定健診質問票の開発(平成27～28年)」における同様の検討の後、過去1年間に新たに公表された文献を中心に検討した。これまで、No.15「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある」、No.16

「朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取している」、No.17「朝食を抜くことが週に3回以上ある」について、横断研究と後ろ向きコホート研究で肥満との関連が報告されていたが、糖尿病との関連は認めないと報告されていた。今回、新たに加わったエビデンスとしては、前向きコホート研究において、上記の食事・食行動に関する質問項目を含めたスコアと2型糖尿病発症との関連を認めるとする報告があった。各質問項目を個別に検証した結果は定かではないが、食事・食行動に関する質問項目は、2型糖尿病発症についても概ねエビデンスがあると考えられる。

E. 結論

No.15、16、17の既存の質問項目については、肥満に加えて2型糖尿病発症に関しても概ねエビデンスがあると考えられた。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

I. 研究協力者

青木 鐘子 筑波大学大学院人間総合科学学術院

表 1

研究対象	曝露要因	エンドポイント	研究デザイン	結果	レベル	文献
1 2015年に福島県で特定健診を受診し、2016年から2020年まで追跡された40-74歳の193,246人	“喫煙、飲酒、週3回以上の朝食抜き、人と比較して食べる速度が速い、週3回以上の就寝前の2時間以内の夕食摂取、3食以外の間食や甘い飲み物の摂取”に基づいた食事-喫煙パターンスコア	レセプト情報に基づく2型糖尿病発症	prospective cohort study, 解析: cox 回帰モデル	食事-喫煙パターンスコアの第1四分位に対する第4四分位のハザード比は、男性で0.82(0.72-0.92) (<i>trend</i> $p=0.002$)、女性で0.87(0.76-1.00)(<i>trend</i> $p=0.034$)であった。	2	Ma E, et al. Public Health. 2023; 224:98-105.